

〔源平盛衰記〕清盛捕化鳥并一族官位昇進附禿童并王莽事

六波羅殿ノ御一家ノ公達ト云テケレバ、花族モ英才モ面ヲ向ヘ肩ヲ並ル人ナカリケリ、太政入道ノ小舅ニ平大納言時忠卿ノ常ノ言ニ、此一門ニアラヌ者ハ、男モ女モニ法師モ、人非人トゾ被申ケル、

〔源氏物語〕院へまわり給へれば、いといたく、おもやせにけり、さうじにて日をふるけにやと、こころぐるしげにおぼしめて、略下

〔倭訓栞〕前編四十五おもかげ。萬葉集に見ゆ、文選に顔をよめり、顔氣をいふ也、常に面影と書り、かげは景氣をいふ、又依係をよめり、面相是心相非也と注す、係の字は和俗義をもて二合したる也、宗祇の説に、三義を分てり、おもかげは身をもはなれずなれ、てわかる、方もまら川の關、髣髴と其物を見る意也、秋のなごりながめし空の有明におもかげ近き冬の三日月、よく相似たる意也、よしさらばとはずばわかず有もせでおもかげばかり來て歸るらん、唯そとばかりの意也、

〔倭訓栞〕前編四十五おもがくし。面隱の義、新撰六帖に、わぎも子がまだ朝がほやつ、むらん髪ふりさげて面がくしする、

〔倭名類聚抄〕三頭面額。楊雄方言云、五陌反、和名比太比、東齊謂之額、蘇朗反、幽州謂之額、五各反

〔箋注倭名類聚抄〕二頭面說文、頤額也、玉篇額額同上、下總本陌作伯、按陌伯同音、然五陌與廣韻合、作陌似是、山田本有和名二字、醫心方同訓、神代紀、顯字、允恭紀、額字並同訓、說文、頤額也、山田本朗作

郎、曲直瀨本作良、按蘇朗與廣韻合、在上聲、三十七蕩郎、在平聲、十一唐、良在十陽、作郎、作良、並非、中略、輜軒使者紀代語釋別國方言十三卷、漢楊雄撰、所引卷十文、原書無幽州謂之額五字、按釋名、額

鄂也、有根鄂也、故幽州人則謂之額也、疑源君引釋名、誤並為方言文、或幽州上舊有釋名云三字、傳

額